

地域経済の成長と安定 - 多様性との関連 -

安藤 浩一* 中村 良平**

2004年7月

要 旨

1. 本論では、主に日本の都道府県別の付加価値生産額データを用いて、地域成長率（成長）と安定性（循環、変動）の関係を探り、多様性との関連についても考察を加えた。分析の枠組みとしては、地域の産業戦略や地域間の資源配分により国や地域の成長率の動きが決定されるとする「地域ポートフォリオ・アプローチ」を採用した。本論のねらいは、これらの計測を通じて、地域間の成長率の格差と、地域経済の安定に対して多様性が果たす役割について、新しい視点を提供することである。
2. 20年超程度の長期の分析によれば、各地域について成長と変動の間にトレードオフ関係が確認され、理論の予想と整合的なものとなっている。各地域は、地域ごとの成長と変動への態度の違いに応じて、地域ごとにどのような産業戦略（産業シェアの組み合わせ）を取るかを決定していることが出来る。地域によりこのようなトレードオフからの乖離も生じており、パフォーマンスの改善を図る余地が存在している。また、これらの地域をうまく組み合わせることで、全国レベルの成長と変動を適度に選択することができる。
3. 業種分散について、長期について確認することはデータの制約等により困難であるが、10年程度のデータに基づいてフロンティア曲線を試算してみると、安定化がもたらされていることが確認された。また、多様性が高い地域は、安定性が高いことも確認された。
4. 地域間の成長率の格差は、変動をどの程度許容するかという地域による嗜好の差も反映しているという点で、単純な比較や画一的な目標の設定が適当とは言えない。また、多様な地域や業種が組み合わせられた経済を志向することが、安定的な成長を実現するための方策として有効である。

Keywords : 成長、循環、安定性、多様性、分散化、ポートフォリオ、地域間格差、産業戦略

* 日本政策投資銀行 地域政策研究センター 副主任研究員(koando@dbj.go.jp)

** 岡山大学 経済学部 教授(ubbz0252@cc.okayama-u.ac.jp)